

美郷町と日本航空株式会社（JAL）

連携協力協定を締結

このたび、美郷町と日本航空株式会社（JAL）は、双方が所有する資源や機能等を活用することで相互交流を深め、環境保全活動の推進と地域の活性化等を図ることを目的に連携協力協定を締結しました。

同社が自治体と連携協力協定を結ぶのは全国で初めての取り組みです。



■松田町長(写真左)と上川取締役専務執行役員(写真右)

協定締結式は4月4日に名水市場湧太郎で開催。町議会議員や町教育関係者、町内団体・企業関係者など約60名が見守る中、松田町長と同社の上川裕秀取締役専務執行役員が協定書を取

り交わしました。上川取締役専務執行役員は「協定締結は最初の第一歩。観光を拠点とした地域振興と、水環境保全活動の促進を目的に、お互いにアイデアを出し合いながら双方が発展できるように努力したい」とあいさつしました。続いて松田町長が「交流人口の拡大による町全体の活性化を進めている中で、今回の協定は将来的にも大きな可能性を持っている。今後はがっちりと手を結び連携を図っていききたい」と応えました。

協定は、町と同社の環境保全に対する理念が合致したことをきっかけに、民間企業との連携を推進する松田町長の提案を受けた同社の天川谷秋田支店長（美郷町六郷出身）が本社に働きかけて締結に至りました。

今後は、美郷町が取り組んでいる水環境保全活動と、同社が社会的責任（CSR）の中で行っている「きれいな空気と水を守る環境活動」の協働推進を柱としながら、様々な連携事業を展開することにより、日本航空便を活用した美郷町への誘客や交流人口の拡大を図っていきます。

美郷町と

株式会社秋田銀行

4月9日、美郷町と株式会社秋田銀行は災害協力に関する協定を締結しました。同行との協定では、災害発生時に店舗を一時避難場所や物資集積場所として提供するほか、同行の店舗網などのインフラや人的資源の活用、町の要請による災害対策資金の融資対応などについて協力事項を定めました。

役場で開催された締結式では、松田町長と同行の藤原清悦取締役頭取が協定書を取り交わしました。

松田町長が「災害時に力を発揮するのは関係機関や団体との協力関係。町内に支店を置く秋田銀行と協定を結ぶことは安心感につながると、期待を述べると、藤原取締役頭取は「災害時の協力はもちろん、平常時も防災意識の啓発に取り組んでいきたい。地域の中に災害時の助け合いの精神が醸成されれば喜ばしい」と応えました。



▲藤原清悦取締役頭取と(写真左)松田町長(写真右)

協力 協定

安心を確保するため、株式会社北都銀行と協定を締結しました。

●環境保全活動

- ・児童とJAL社員による「七滝水の森植樹」の協働活動
- ・水環境保全講座等の開催
- ・地域住民とJAL社員による清水清掃

●伝統文化等の資源を活用した美郷町の地域づくり事業へのJALの参加

- ・農家民宿を活用した農作業体験ツアーの実施
- ・文化財や後三年合戦にまつわる歴史、町並み等を活用した地域づくりや交流人口拡大に向けた事業連携

●JAL社員と美郷町民との交流

- ・ラベンダーまつり、美郷フェスタ等へのJAL社員の参加
- ・「学校では受けられない授業」「JALそらいく」など、町民を対象とした各種教室の開催
- ・町職員等を対象としたCAIによるマナー研修の実施
- ・JALを利用した修学旅行の実施

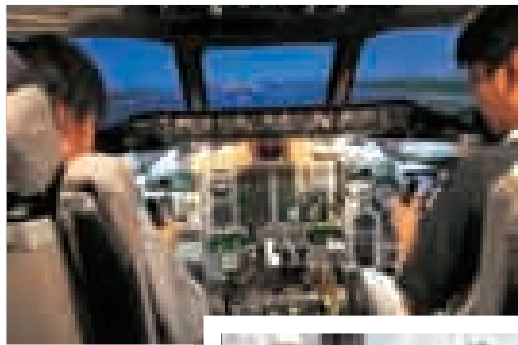
●美郷を運ぶ

- ・航空機内での美郷特産品プレゼントの実施
- ・美郷特産品のPR

連携協定締結に先駆けて実施しました 学校では受けられない授業 —JALの翼—

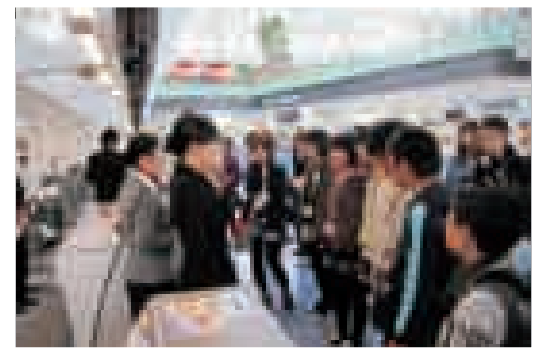
3月28日に、小学校統合を記念したほんもの講座「学校では受けられない授業—JALの翼—」を開催しました。この講座は、統合を目前にした各小学校の児童代表が交流して友情を深め合うとともに、普段訪れる機会のない場所を見学することで見聞を広め、人や職業の魅力に触れて感性を磨いてもらおうと、JALの支援を受けて町が主催しています。

参加した小学校6年生の親子10組は、羽田空港の整備工場の見学やパイロットの訓練に使用されるフライトシミュレーターを体験。JALの社員が航空機の飛ぶ原理や構造などについて説明を行うと、子どもたちは熱心に聞き入っていました。



◀フライトシミュレーターで夜間飛行を体験。難しい離着陸をどうにか成功させようと、子どもたちは夢になっていました。

▶グランドスタッフの方々に空港内の施設や仕組みを説明してもらいました。
(羽田空港国際線ターミナルJALカウンターにて)



4月23日、美郷町と株式会社北都銀行は災害協力に関する協定を締結しました。同行との協定では、災害発生時に店舗を物資集積場所として提供するほか、防災活動の啓蒙、町の要請による災害対策資金の融資対応などについて協力事項を定めました。

役場で開催された締結式では、松田町長と同行の伊藤兵一専務取締役が協定書を取り交わしました。

松田町長が「『備えあれば憂いなし』という言葉があるが、これだけ備えたから大丈夫ということはない。今回の協定を心の支えとして、今後も災害対応力の強化を図りたい」と今後の体制作りへの意欲を述べると、伊藤専務取締役は「銀行は通常の建物よりも頑丈な造りのため、災害に強いという特徴もある。当行が持つ災害時対応のノウハウなどを提供しながら、町の安全・安心に寄与したい」と応えました。



▲伊藤兵一専務取締役と(写真左)松田町長(写真右)

美郷町と株式会社北都銀行

災害協

災害発生時の安全・町は株式会社秋田銀行それぞれ災害協力協